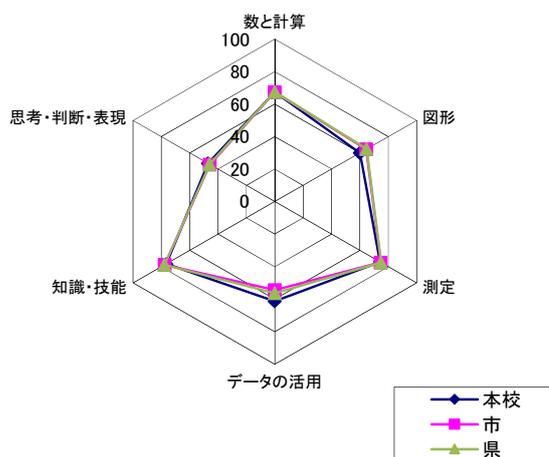


宇都宮市立桜小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.4	67.3	67.4
	図形	60.0	64.5	64.7
	測定	74.2	74.7	74.9
	データの活用	61.3	54.4	56.4
観点	知識・技能	76.5	77.6	77.8
	思考・判断・表現	47.1	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○3けた+3けた=4けたの計算ができるかどうかを問う問題では、本校正答率は100%であった。</p> <p>●数直線で目盛りが表す数の大きさについて理解し、分数で表すことができるかどうかをみる問題に課題が見られる。</p> <p>●整数-小数第一位の計算ができるかどうかを問う問題では、市の正答率を10.1ポイント下回った。</p>	<p>・位を揃える計算に繰り返し取り組み、最後に見直しや確認算を行う機会を設けることで、正確性が向上するようにする。</p> <p>・数直線の見方を表す問題については、目盛りのとらえ方を理解する機会を丁寧に払い、数直線上での分数の表し方の理解を高めていくようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○半径と直径について理解し、球の性質を利用し長さを求めることができるかどうかを問う問題では、市の正答率を1.1ポイント上回った。</p> <p>●円の中心とコンパスの使い方について理解しているかどうかを問題では、市の正答率を20.3ポイント下回った。</p>	<p>・コンパスを使う問題では、コンパスの使い方を例示してから学習課題に取り組みさせることを繰り返すことにより、作図の仕方への習熟を図る。</p> <p>・図や表を用いたり、既習事項を生かしたりしながら、問題を自力で解決できるように、スモールステップで指導していく。</p>
測定	<p>平均正答率は、市の平均よりやや高い。</p> <p>○はかりの目盛りを読み取り重さを答えることができるかどうかをみる問題では、市の正答率を8ポイント上回った。</p> <p>●時間が経過する前の時刻を求めることができるかどうかをみる問題では、県の平均正答率を6.1ポイント下回った。</p> <p>●地図から道のりを読み取って、その和を求める問題では、県の平均正答率を9.3ポイント下回った。</p>	<p>・時刻と時間の概念を正しく理解できるよう、具体物操作を通して視覚的に時間の流れを捉えさせたり、日常の場面を例示したりして基礎学力を定着させ、応用問題にも対応できるよう指導していく。</p> <p>・道のりと距離の概念について、地図などを用いて視覚的に捉えさせたり、日常の場面を例示したりして、実感的に捉えられるよう指導を行っていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○2つの棒グラフで目盛りの数が異なることに注意しながら、棒グラフを読み取ることができるかどうかを問う問題では、市の正答率を15.8ポイント上回った。</p> <p>●棒グラフを読み取り、2番目に多かったスポーツを答える問題では、市の正答率を2.1ポイント下回った。</p>	<p>・棒グラフの基本的な読み取りに関しては、算数だけではなく、他の教科においても意図的に取り上げ、数値を読み取ったり、変化の傾向を捉えたりしながら学習課題に取り組みさせるようにする。</p>